



四国圏広域地方計画 進行管理方法について

- ① 広域プロジェクト推進方針
- ② 重点的な取り組みとリーディングプログラム
- ③ リーディングプログラムの概要

平成29年3月

四国圏広域地方計画協議会

広域プロジェクト推進方針

プロジェクト名	No.1「支国」防災力向上プロジェクト	
目 標	南海トラフ地震への対応力の強化等、安全で安心して暮らせる四国	
【基本方針】		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 想定されている南海トラフ地震や津波等に対して安全・安心を確保するほか、台風や近年増加している豪雨・濁水等の自然災害に備える。 ○ 生命・財産の安全性を高めると共に、今後、急速に進行する社会インフラの老朽化対策として、予防保全の観点から適切な維持管理・更新等により地域の暮らしを支える。 ○ 地域の暮らしの快適性を高めることによって、多世代がともに心穏やかに暮らせる、やすらぎの実現と圏域の形成を目指す。 		
重点的な取組	当面の方針	中長期
南海トラフ地震に対する安全・安心を確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 四国 8 の字ネットワークの整備推進 ● 河川整備計画や海岸保全基本計画等に基づく施設整備とこれらを組み合わせた「多重防護」としての地震・津波対策の推進 ● 「四国南海トラフ地震対策戦略会議」による合同演習、災害時の連絡体制の充実等の予防対策や応急・復旧対策を推進 	● 四国 8 の字ネットワークの形成を目指す
台風・豪雨等の自然災害に備える	<ul style="list-style-type: none"> ● ダムの新設、改造及び河川の床上浸水対策等を推進 ● 高規格幹線道路や地域高規格道路等、主要幹線道路の整備を推進 ● 土砂災害警戒区域等の指定、各種ハザードマップの作成及び周知等の警戒避難体制の充実・強化を図る 	● 災害に強い圏域の形成を目指す
暮らしを支えるインフラの老朽化対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● インフラ長寿命化基本計画に基づき、行動計画や個別施設計画の策定・見直しを推進 ● 持続可能なメンテナンス体制を構築し、計画的な定期点検を実施 	● 点検結果に基づき、計画的な修繕・更新を実施することにより、予防保全型維持管理の導入と戦略的なインフラ維持管理・更新を目指す

広域プロジェクト推進方針

プロジェクト名	No.2「史国」伝統継承プロジェクト	
目 標	歴史・文化、風土を活かした個性ある地域づくりを進め、人を引きつける四国	
【基本方針】		
<p>○ 四国八十八箇所霊場の門前町の多くは、人口減少や高齢化によりかつての活気や景観が失われており、遍路道の保全を始め、地域資源・観光資源としての保全・活用が不十分な状況であることから、周辺の観光拠点と合わせて、地域の魅力の向上を図る。</p> <p>○ 遍路道を通じて地域と地域をつなぎ、遍路文化を活かした魅力ある地域を次世代につないでいく。</p>		
重点的な取組	当面の方針	中長期
遍路文化を核とした四国遍路の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界遺産登録を目指す『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会」等の活動推進 ● 外国人観光客に対応した観光ボランティアガイドの育成 ● 修学旅行やビジネスツーリズムに対応した遍路文化の簡易体験型観光メニュー及びモデルコースの開発・展開 ● スマートフォンのアプリや音声翻訳技術が活用できる態勢を構築 	<ul style="list-style-type: none"> ● 四国遍路の世界遺産「暫定一覧表」への追加記載を目指す
遍路道、札所周辺的环境整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩き遍路の主な経路における危険箇所対策の推進 ● 札所周辺の景観等一体的な環境整備 ● みち案内表示シートの設置推進 ● トイレや道の駅等休憩所、コンビニエンスストア等主に歩き遍路に対する情報発信 ● Wi-Fiスポットの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 遍路道周辺の観光推進と合わせ、地域の魅力の向上を図る
伝統的な文化を次世代に継承	<ul style="list-style-type: none"> ● お遍路さんの移動支援や世界遺産登録に向けたおもてなし文化の活性化促進 ● お接待や遍路文化継承を推進するためのボランティアを育成 ● 歴史や文化とふれあい、学ぶことができる体験型施設の整備 ● 伝統芸能や文化財への関心や保護の意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史・文化を次世代に引き継ぐ人材の育成を目指す

広域プロジェクト推進方針

プロジェクト名	No.3「視国」観光活性化プロジェクト	
目標	歴史・文化、風土を活かした個性ある地域づくりを進め、人を引きつける四国 ～美しい自然とおもてなしの心あふれた癒やしの実現～	
【基本方針】		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 四国は、1200年以上続く「四国遍路」やお接待の文化が根付くスピリチュアルな島であり、海・山・川など豊かな自然と土地の人々の温かな「おもてなしの心」に触れることを通じて、癒やしを実現できる場所である。 ○ 近年、日本を訪れる外国人観光客が増加傾向にあり、四国圏においても東アジアからの外国人観光客が伸びており、今後も、更に増加する見込み。 ○ 旺盛なインバウンド需要を取り込むために、四国圏の有形無形の資源を活かし骨太な観光導線をつくることで、外国人観光客に四国をPRしていく「広域観光周遊ルート」や、着地型旅行商品の開発を通じて魅力ある観光地域づくりを目指す「観光圏」の取組等により、四国圏独自のお遍路文化や自然・歴史等を活かした魅力ある観光地域づくりを促進する。 ○ 四国圏の観光の魅力を、WEBや放送コンテンツにより積極的に情報発信し、滞在型観光、体験型観光による交流人口の拡大による地域の活性化を図る。 ○ 訪日外国人旅行者を円滑に受け入れるために受入体制の整備を推進して、四国圏への観光客増加と地域活性化の実現を図る。 		
重点的な取組	当面の方針	中長期
「広域観光周遊ルート」等による観光振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域観光周遊ルートの形成等の取組を促進 ● デジット・ジャパン地方連携事業等を通じて、インバウンド観光の振興 ● 日本風景街道による美しい街道づくり ● 観光圏の形成を支援し、国際競争力の高い魅力ある観光地域づくりを推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 受入体制や環境整備を推進し、四国圏独自のお遍路文化や食・自然・景観・歴史・おもてなしの心などを活かした国際競争力の高い魅力ある観光地域づくりを目指す
四国圏の特徴を活かした観光による交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 四国八十八景による魅力発信 ● 「瀬戸内海観光連携推進会議」や「みなとオアシス」等によるクルーズ船受入環境の改善 ● 「環瀬戸内海地域交流促進協議会」による圏域内外の交流活性化等の取組 ● 四国歴史文化道による魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 四国圏の特徴を活かした魅力を国内外に発信し、圏域内外の交流・連携の強化を目指す

広域プロジェクト推進方針

プロジェクト名	No.4「子国」支援対策プロジェクト	
目 標	自立的・持続的に発展する四国圏の実現	
【基本方針】		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 圏域外からの移住者を増加させるための情報発信や受入体制の整備、子育てしやすい仕組みの構築・社会風土の醸成による住みやすい・住みたくなる地域づくりを行い、四国圏に人を呼び込み、定着させ、人口減少をできる限り食い止める。 ○ 若者の働く場の確保、女性・高齢者等の活躍の場づくり、さらには、拠点機能のコンパクト化や公共交通網再構築によるネットワーク化による都市機能の維持等、活力・魅力あふれる地域を形成し、四国圏に住むすべての人が希望を持てる社会を構築する。 		
重点的な取組	当面の方針	中長期
人口減少対策としての移住促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 農山漁村体験の取組を推進し、四国圏の魅力を発信することで、移住希望者の候補地となることを目指す ● 様々な媒体を用いた移住に関する具体的な情報を発信することにより、四国圏への移住を促進する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 四国圏への移住を増やす
子育て支援制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業と地域社会の連携による社会全体での子育て活動を支援する ● 気軽に育児の相談ができる子育てしやすい環境づくりを推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てしやすい環境を実現する
少子化・高齢化への対応策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 「四国少子化克服戦略」を四国圏が一体となって推進する ● 高齢者の社会参画に向けた取り組みを促進する ● 歩いて暮らせるまち・安全で優しいまちを実現する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者の流出減・流入増と出生率の大幅向上を実現する ● 高齢者の暮らしやすいまちづくりを実現する
「コンパクト＋ネットワーク」の構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 「コンパクトシティ」の形成を目指す ● 「小さな拠点」の形成を目指す ● 『コンパクト＋ネットワーク』を構築するための基盤を整備する ● 「地域包括ケアシステム」の構築を促進する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域に則した『コンパクト＋ネットワーク』を構築する

広域プロジェクト推進方針

プロジェクト名	No.5「資国」産業競争力強化プロジェクト	
目 標	産業競争力の強化を図り、活力あふれる四国の創造	
<p>【基本方針】</p> <p>○ 四国地域は、域内市場規模が非常に小さく、人口減少は全国に25年、高齢化率の上昇も全国に10年先行している状況にあり、これに伴う経済の縮小や過疎化の進展といった様々な課題に直面する課題先進地域であることから、産（産業界）・学（大学等）・官（行政）・金（金融機関）の力を結集して、産業競争力の強化に取り組むことで、活力にあふれ、持続的に発展する四国の創造を目指す。</p>		
重点的な取組	当面の方針	中長期
地域資源や技術を活かし、産学官の連携を深め、世界に通用する産業競争力を強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 高機能素材を活用した高付加価値製品の開発・供給拠点の形成 ● イノベーションの促進に資する新製品開発等の支援と知的財産の戦略的な活用促進 ● 医療介護等の現場ニーズに対応したものづくりへの参入促進等による健幸支援産業の創出 ● 四国 8 の字ネットワークの形成を目指すとともに、主要幹線道路や物流ターミナルの整備を推進 ● 地方創生の核となる「道の駅」の機能強化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 競争力ある製品開発が促進される好循環の形成
技術力や特産品を国内外へ売り込み、新たな市場を切り拓く	<ul style="list-style-type: none"> ● 四国の優れた製品等の国内外への販路開拓の推進 ● 成長著しい東アジア市場をターゲットに四国が一体となった海外販路開拓の推進 ● 大都市圏での四国産品の認知度向上、販売拡大の推進 ● 木質バイオマス発電等による間伐材の需要拡大に向けた取組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内外の販路拡大と新たな市場開拓の推進
産業の成長を支える人材の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 四国の自然や暮らし、仕事などの魅力や必要情報の発信による移住やU I J ターン就職を促進 ● 四国内で連携した産業人材の育成研修や交流ネットワークづくりの推進 ● 後継者不在事業者と譲受希望者とのマッチングによる事業継続と雇用確保の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業の成長を支える多様な人材の確保

重点的な取り組みとリーディングプログラム

NO	広域プロジェクト名	重点的な取り組み (広域地方計画で決定)	具体的な取り組み内容 (プロジェクト毎に検討・タマ出し)	PL	SL					MBR①						MBR②		リーディングプログラム (チーム名)				
				四国運輸局	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	四国ツーリズム創造機構	中国四国農政局	四国森林管理局	四国地方整備局	大阪航空局	中国四国地方環境事務所	四国経済連合会	四国経済産業局	四国ツーリズム創造機構					
3	「視国」 観光活性化プロジェクト	「広域観光周遊ルート」等による観光振興	既 広域観光周遊ルートの形成等の取組を推進	●	●	●	●	●	●							●				→ 「広域観光周遊ルート」等による観光振興 (四国ツーリズム創造機構及び関係機関)		
			既 デジタル・ジャパン地方連携事業等を通じてインバウンド観光の振興	●	●	●	●	●	●	●												
			既 日本風景街道による美しい街道づくり	●	●	●	●	●	●			●					●					
			既 観光圏の形成を支援し、国際競争力の高い魅力ある観光地域づくりを推進	●	●	●																
		四国圏の特徴を活かした観光による交流促進	既 四国八十八景による魅力発信	●	●	●	●	●	●			●					●					→ クルーズ船受入環境の改善 (瀬戸内海観光連携推進会議及び関係機関)
			既 「瀬戸内海観光連携推進会議」や「みなとオアシス」等によるクルーズ船受入環境の改善	●	●	●	●	●	●			●		●	●	●						
			既 「環瀬戸内海地域交流促進協議会」による圏域内外の交流活性化等の取り組み	●	●	●	●	●				●					●					
			既 四国歴史文化道による魅力発信	●	●	●	●	●				●					●					

○プロジェクトチームには協議会構成員であれば希望すれば参加可（実施主体でなくてもよい）
 ○プロジェクトチームには必要に応じて関係機関（協議会構成員以外）の参加も可
 ○プロジェクトチームには事業担当部局の参加も検討

注) PL：プロジェクトリーダー
 SL：サブリーダー
 MBR①：構成員（協議会）
 MBR②：構成員（協議会以外）

リーディングプログラムの概要 (No.1「支国」防災力向上プロジェクト)

1. リーディングプログラム

南海トラフ地震への対応強化

1) プログラム概要

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災を踏まえ、四国が一体となって取り組むべき施策や、各機関が重点的に取り組むべき施策等について、国・県等の行政機関、学識経験者、経済界、ライフライン事業者等、幅広い分野の方々の参加の下、南海トラフ地震への備えを関係機関の連携・協力により、強力かつ着実に推進していく。

2) リーディングプログラムリーダー (プログラム推進責任者)

四国地方整備局 企画部 広域計画課長 (四国南海トラフ地震対策戦略会議 事務局)

3) リーディングプログラムチーム

「四国南海トラフ地震対策戦略会議」構成員 49 機関

<p>【国の地方支分部局】 21機関 内閣府、四国管区警察局、四国総合通信局、四国財務局、高松国税局、四国厚生支局、中国四国農政局、林野庁四国森林管理局、四国経済産業局、中国四国産業保安監督部四国支部、四国地方整備局、四国運輸局、大阪航空局、国土地理院四国地方測量部、気象庁高松地方气象台、海上保安庁第五管区海上保安本部、海上保安庁第六管区海上保安本部、中国四国地方環境事務所、中国四国防衛局、陸上自衛隊第14旅団、海上自衛隊呉地方総監部</p> <p>【地方公共団体】 9機関 徳島県、香川県、愛媛県、高知県、徳島県警察本部、香川県警察本部、愛媛県警察本部、高知県警察本部、四国市長会</p> <p>【経済団体】 2機関 四国経済連合会、四国商工会議所連合会</p> <p>【学識経験者】 6名 学識経験者</p> <p>【その他の機関】 11機関 全国消防長会四国支部、日本銀行高松支店、西日本高速道路㈱四国支社、四国電力㈱、四国旅客鉄道㈱、日本貨物鉄道㈱四国支店、西日本電信電話㈱四国事業本部、㈱NTTドコモ四国支社、(独)水資源機構吉野川本部、四国ガス㈱、本州四国連絡高速道路㈱鳴門管理センター</p>

2. リーディングプログラムの活動状況 (今後 1～2 年程度)

平成 28 年 5 月 23 日	(第 6 回) 四国南海トラフ地震対策戦略会議本会議
◇	四国地震防災基本戦略の推進に向け、平成 28 年度実施予定の主要な取り組みを公表。
平成 28 年 8 月 31 日	平成 28 年度四国企業防災戦略トップセミナー
◇	四国に本社や工場を持つ企業が、南海トラフ巨大地震などの大規模災害により被災した場合には、四国はもとより日本経済・世界経済へ多大な影響を及ぼすことが懸念。東日本大震災により大きな被害を受けながらも、早期に立ち直った企業の事例を紹介頂き、事業を継続していくための課題や対策について、四国の企業との意見交換を行い、企業の大規模災害への備えを充実させる事を目的として実施。
平成 28 年 11 月 5 日	平成 28 年度大規模津波防災総合訓練
◇	地震による大規模津波の被害軽減を目指すとともに、津波に対する知識の普及・啓発を図ることを目的として、多くの防災機関や住民が参加する、広域的かつ実践的な訓練を実施。
平成 29 年 1 月 17 日	平成 28 年度四国防災戦略トップセミナー
◇	四国内の市町村長と四国南海トラフ巨大地震対策戦略会議メンバーが一堂に会し、防災に関する講演の拝聴や意見交換等を通じて、見識を深め、地域防災力の向上を目的に実施。
平成 29 年 4～5 月頃	四国地震防災基本戦略における「平成 28 年度 進捗状況」を公表予定
平成 29 年 4～5 月頃	(第 7 回) 四国南海トラフ地震対策戦略会議本会議 (予定)
◇	四国地震防災基本戦略の推進に向け、平成 29 年度実施予定の主要な取り組みを公表予定。
平成 29 年 8 月頃	平成 29 年度四国企業防災戦略トップセミナー (仮称)

リーディングプログラムの概要 (No.2「史国」伝統継承プロジェクト)

1. リーディングプログラム

四国八十八箇所霊場と遍路道の世界遺産登録を目指す

1) プログラム概要

四国八十八箇所霊場巡拝の歴史の中で培われてきた「遍路文化」は、長い歴史を超えて地域と共存し継承されてきた、四国が世界に誇る生きた文化遺産である。この四国遍路文化を次世代に保存・継承していくために、『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会等の活動を推進しながら世界遺産登録を目指すとともに、四国遍路文化を通じて、国内外の地域と地域、人と人をつなぐダイナミックな対流を湧き起こし、新たな四国の活性化を目指す。

2) リーディングプログラムリーダー (プログラム推進責任者)

香川県政策部文化芸術局文化振興課

3) リーディングプログラムチーム

『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会」構成員 95 機関

【県・市町村】(4県58市町村)

徳島県、徳島市、鳴門市、小松島市、阿南市、吉野川市、阿波市、三好市、勝浦町、神山町、牟岐町、美波町、海陽町、板野町、上板町
高知県、高知市、室戸市、安芸市、南国市、土佐市、須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、香南市、香美市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、芸西村、中土佐町、四万十町、大月町、三原村、黒潮町
愛媛県、松山市、今治市、宇和島市、八幡浜市、新居浜市、西条市、大洲市、四国中央市、西予市、久万高原町、砥部町、内子町、愛南町
香川県、高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市、観音寺市、さぬき市、東かがわ市、三豊市、宇多津町、多度津町

【地方支分部局】(8機関)

四国総合通信局、中国四国農政局、四国森林管理局、四国経済産業局、四国地方整備局、四国運輸局、国土地理院四国地方測量部、中国四国地方環境事務所高松事務所

【大学】(3団体)

四国国立大学協議会(鳴門教育大学、徳島大学、高知大学、愛媛大学、香川大学)、四国大学、徳島文理大学

【霊場会】(1団体)

四国八十八箇所霊場会

【経済団体】(10団体)

四国経済連合会、徳島経済同友会、土佐経済同友会、愛媛経済同友会、香川経済同友会、高知県商工会議所女性会連合会、愛媛県商工会議所女性会連合会、香川県商工会議所女性会連合会、四国商工会議所連合会、四国地区信用金庫協会

【NPO、その他関係機関】(11団体)

NPO法人徳島共生塾一歩会、NPO法人ループ8 四国、「四国へんろ道文化」世界遺産化の会、NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク、四国八十八箇所へんろ小屋プロジェクト、徳島ユネスコ協会、愛媛県ユネスコ連絡協議会、香川県ユネスコ連絡協議会、公益社団法人日本青年会議所四国地区協議会、公認先達・歩き遍路の会、加茂谷へんろ道の会

2. リーディングプログラムの活動状況 (今後1～2年程度)

平成 28 年 10 月 27 日	第 2 回へんろ wi-fi 協議会
平成 28 年 11 月 2～9 日	四国遍路展 (東京交通会館)
平成 28 年 11 月	世界遺産登録推進 4 県協議会
平成 28 年 12 月	文化庁協議
平成 29 年 3 月 18 日	「四国遍路を世界遺産に」国際シンポジウムを開催
平成 29 年 3 月～5 月	世界遺産登録推進協議会各部会・部会連絡会開催 (予定)
平成 29 年 7 月	世界遺産登録推進協議会総会 (徳島市・予定)
平成 29 年秋	四国遍路シンポジウム (高松市・内容未定)

※上記と並行し、四国 4 県と関係市町村は札所寺院と遍路道の文化財指定に向けた取り組みを進める。

リーディングプログラムの概要 (No.3「視国」観光活性化プロジェクト)

1. リーディングプログラム

『広域観光周遊ルート』等による観光振興

1) プログラム概要

広域観光周遊ルートの形成により複数の県を跨がって、テーマ性・ストーリー性を持った一連の魅力ある観光地をネットワーク化するとともに、骨太な「観光動線」とすることで、四国圏をまだみぬ魅力あふれる観光地として海外に向けて積極的にPRし、外国人観光客の来訪を促進。

2) リーディングプログラムリーダー (プログラム推進責任者)

四国運輸局観光部 部次長

3) リーディングプログラムチーム

[広域観光周遊ルート形成促進事業]

・「スピリチュアルな島 ～四国遍路～」

四国運輸局、香川県、徳島県、愛媛県、高知県など自治体、四国ツーリズム創造機構

・「せとうち・海の道」

四国運輸局、香川県、徳島県、愛媛県など自治体、せとうち観光推進機構

四国経済連合会

2. リーディングプログラムの活動状況 (今後1～2年程度)

平成 28 年度中	広域観光周遊ルート形成促進事業 「スピリチュアルな島～四国遍路～」
◇ 事業計画策定・マーケティング 四国広域観光周遊ルート形成計画事業に係る外国人周遊動向調査等の深度化、四国海上ルートにおける外国人旅行者調査等を実施。	
◇ 受入環境整備・交通アクセスの円滑化 四国観光関係者等へのインバウンドセミナーの実施、既存観光アプリに四国の観光コンテンツを追加、公共交通が脆弱な地域における観光周遊バス等による実証実験等を実施。	
◇ 滞在コンテンツの充実 スピリチュアルな島で策定したモデルコースについて、外国人調査員によるモニター調査、田舎体験コンテンツ発掘等を実施。	
◇ 海外への情報発信・プロモーション スピリチュアルな島～四国遍路～をアピールするための多言語プロモーションビデオ作成、海外旅行博への出展、四国インバウンド商談会等を実施。	
平成 29 年度	広域観光周遊ルート形成促進事業 「スピリチュアルな島～四国遍路～」
レンタカーによるドライブ旅行推進のための環境整備、観光案内所・観光関係者を対象にした研修、地域体験型コンテンツの充実、インバウンド商談会、海外旅行博出展等を検討中。	

リーディングプログラムの概要 (No.3「視国」観光活性化プロジェクト)

1. リーディングプログラム

クルーズ船受入環境の改善

1) プログラム概要

「瀬戸内海観光連携推進会議」による国内外に向けた瀬戸内海の魅力の情報発信や、クルーズ船の受入環境改善を図るための積極的な情報発信により寄港地誘致を促進し、寄港地におけるおもてなしの機運醸成や寄港地周辺での観光ルート形成等を推進。

2) リーディングプログラムリーダー (プログラム推進責任者)

四国運輸局観光部 部次長

3) リーディングプログラムチーム

[瀬戸内海観光連携推進会議]

H25.4 設立 (近畿運輸局・神戸運輸監理部・中国運輸局・四国運輸局・九州運輸局)

徳島県、香川県、愛媛県、高知県、四国ツーリズム創造機構、四国地方整備局、
中国四国地方環境事務所、四国経済連合会、四国経済産業局

2. リーディングプログラムの活動状況 (今後1～2年程度)

平成 28 年 10 月 21 日	瀬戸内海観光連携推進会議
◇ 瀬戸内海観光連携推進会議開催 5つの運輸局が一同に介し、せとうちサイクルーズ PASS や瀬戸内寄港地紹介マップなど、これまでの取り組みに等について、意見交換を行った。また、せとうち DMO の目指すもの、クルーズを含めた取組内容等について、(一社)せとうち観光推進機構より講演を頂き、意見交換を行った。	
平成 28 年 11 月 15 日	瀬戸内クルーズセミナー開催
◇ プロモート：姫路市において瀬戸内クルーズセミナー開催 クルーズ客船の瀬戸内エリアへの寄港を具体的に推進するため、クルーズ船寄港の意義やおもてなし対策、外国クルーズ客船等の瀬戸内エリアへの取り組み方策、新たな瀬戸内クルーズの動きについての講演に加え、船社からのプレゼン、船社と自治体等との個別相談会を開催した。	
平成 29 年度中	
◇ 瀬戸内海観光連携推進会議開催予定 ◇ 瀬戸内クルーズセミナー開催予定	

リーディングプログラムの概要 (No.4「子国」支援対策プロジェクト)

1. リーディングプログラム

『四国少子化克服戦略』の推進

1) プログラム概要

四国の官民が一体となって設立した「四国少子化対策会議」では、平成 27 年 5 月に、出生率の大幅向上ならびに若年人口の流出減・流入増に向けて「四国少子化克服戦略」を策定した。同戦略のプログラムを実行していくことを通じて、四国の少子化や人口減少を克服していく。

2) リーディングプログラムリーダー (プログラム推進責任者)

四国経済連合会 事務局長 (四国少子化対策会議 事務局)

3) リーディングプログラムチーム

「四国少子化対策会議」構成員

【経済団体】 5 機関

四国経済連合会、徳島県商工会議所連合会、香川県商工会議所連合会、
愛媛県商工会議所連合会、高知県商工会議所連合会

【地方自治体】 4 機関

徳島県、香川県、愛媛県、高知県

【学識経験者等】 5 名

2. リーディングプログラムの活動状況 (今後 1～2 年程度)

平成 28 年 8 月 26 日	内閣府への要望活動
◇ 「少子化・人口減少対策の推進について」を内閣府へ提言。	
平成 28 年 10 月 21 日	少子化問題シンポジウムの開催 (徳島市)
◇ 四国の企業の経営者や管理者層を対象に、企業における女性活躍推進や、仕事と育児の両立支援の取組み促進の重要性を伝え、先進企業の具体的取組み内容等を紹介するシンポジウムを開催。	
◇ 併せて「平成 28 年度女性活躍・子育て支援リーディング企業」の表彰を実施。	
平成 28 年 10 月	婚活支援やシニア層の子育て支援の啓発冊子の制作・配布
◇ 結婚や子供を持つことの素晴らしさを伝える冊子を発行し、企業等に配布	
◇ シニア層の子育て支援活動に参考となる冊子を発行し、自治会や企業等に配布	
平成 28 年 11 月 18 日	第 9 回四国少子化対策会議事務局会の開催 (松山市)
◇ 四国連携プロジェクト、各県プロジェクトの進捗状況の報告等	
◇ 四国の婚活支援事業のレベルアップに向けて「えひめ結婚支援センター」を訪問し、ノウハウの共有化を進める。	
平成 28 年度中	生活環境面での四国の優位性を、若者に P R する方法について、検討・実施
平成 29 年 4 月頃	第 10 回四国少子化対策会議事務局会の開催
平成 29 年度上期	第 4 回四国少子化対策会議の開催
◇ 平成 28 年度活動報告、平成 29 年度活動計画等を審議 (予定)。	

リーディングプログラムの概要 (No.5「資国」産業競争力強化プロジェクト)

1. リーディングプログラム

四国圏の強みを活かしたものづくり産業の競争力強化

1) プログラム概要

四国圏には素材産業などの産業集積や豊富な地域資源、高い技術力を有するニッチトップ企業が多数存在している。こうした強みを活用し、ものづくり産業における新たな事業展開や成長を促進することにより競争力の強化を図る。

2) リーディングプログラムリーダー (プログラム推進責任者)

四国経済産業局 総務企画部 企画課長

3) リーディングプログラムチーム

四国経済産業局、四国経済連合会、四国商工会議所連合会、四国4県

2. リーディングプログラムの活動状況 (今後1～2年程度)

平成 28 年 4 月～	地財総合支援窓口を各県に設置
◇ 中小企業等の知的財産に関する悩みや課題解決のため、各県に知財総合支援窓口を設置。	
平成 28 年 5 月 10 日	四国 C N F プラットフォームの設置
◇ 新たな素材である C N F (セルロースナノファイバー) を活用し、新たな産業を創出するため情報交換やパートナーと出会う場を整備。	
平成 28 年 5 月 17 日	平成 28 年度 第 1 回健幸支援産業創出ネットワーク会議
◇ 健幸支援産業の創出に向けて情報共有等を行う関係者会議。(年 2 回程度)	
平成 28 年 7 月 29 日	戦略的基盤技術高度化支援事業 (補助事業) の採択決定
◇ 中小企業が産学官連携して行う研究開発等を支援。(公募: 4/15～6/9、新規採択: 2 件)	
平成 28 年 10 月	医療関連製品ものづくり企業の展示会出展及び全国の医療従事者・医療機器メーカー等との商談
◇ 医療現場の課題・ニーズに対応した製品の試作評価及び販路開拓等。	
平成 29 年 1 月～2 月	知財ビジネスマッチング
◇ 企業の強み・技術の整理とともに、都市圏大手企業とのマッチングを支援。(1/30 大阪、2/1 神奈川)	
平成 29 年 3 月	ヘルスケア産業におけるものづくり分野等の先進取組事例集の発行
◇ 新規参入企業等へのノウハウ提供、四国内外への情報発信等。	
平成 29 年度	高機能素材関連産業の創出支援
◇ C F R P や C N F 等の高機能素材を活用した産業創出を図るため、セミナーや勉強会の開催、専門家による個別プロジェクトの支援、販路開拓支援等を継続して実施する。	
平成 29 年度	ヘルスケア産業に関する事業化等マッチング支援
◇ 医療機関現場ニーズ調査等から生まれた製品や四国内の医療機器関連企業製品の販路支援 (展示会、商談会、学会等へ出展等)。	
平成 29 年度	ヘルスケア産業に関するセミナー等の開催
◇ 医療機器・介護機器開発支援セミナー等の開催。	
平成 29 年度	健幸支援産業創出ネットワーク会議
◇ 健幸支援産業の創出に向けて情報共有等を行う関係者会議。(年 2 回程度)	